

# 佳作 弟

茨城県ひたちなか市立中根小学校六年 安夢美

私には、五才の「自閉症」の弟がいます。二年前、病院で「自閉症の可能性が有ります」と診断されました。

最初は、家族全員そんな事は信じられませんでした。でも、冷静になってほかの子と比べてみると、何に対しても興味を持たず、話しかけても聞いてくれない、顔も見えてくれない、名前を呼んでも振り向かない、まるで、「耳が聞こえないんじゃないかな」と思うような状態であることに気がきました。さらに、弟は水が大好きで、食器を洗っている所に来てすぐ水遊びを始めます。

「あとでね。おしまい。」  
と言つてもかんしゃく(パニック)を起こし、ずっと手の平で受けた水の輝きを見続けます。だから周りから見ると「わがまま」に見えるらしく、いつも周りから冷たい視線を受けました。姉である私でさえ、いつも弟の子守りをさせられて、「なんでこうなっちゃうの?ふつうの子だったらよかった」と思う事もありました。

母をはじめは、自閉症だとはみとめず、「こだわりがあつてパパそっくりじゃないの。」と言つたりしていました。でも先生に「これをやってみたらどうかな。」  
と言われると、すぐ実行してがんばるようになりました。

すこしでも気持ち伝えられるように、みんな写真カード(人物・物・行き先などがわかるようなもの)を作つてコミュニケーションがとれるようにしました。例えば、止まらなかつた水遊びも、「もうすぐおしまいカード」と、「もうおしまいカード」を見せれば終わりにする事ができるようになり、最近では、これが欲しい、どこへ行きたい、とカードで示すようになりました。さらに、

コップを持つて来て、「ジューズちょうだい」とか、態度で示したり、名前を呼ぶと目を合わせてくれるようになりました。

りよういく幼稚園に入つて、一年三カ月になりますが、先生のご指導のおかげで、身の周りの事も少しずつできるようになり、笑顔も多く見せるようになりました。

母も、それはそれはがんばっています。弟のためには良いといわれる事はなんでも経験させたりしています。

最近うれしい事がありました。幼稚園で朝のあいさつの時、名前を呼ばれたら手を挙げて「アイ」と返事が出来たそうです。

又、母の話では、いつもの家族のメンバー(父・兄・私・妹)がいないと、元気がないということです。日頃の弟のようすを見ると、思いもよらない事でした。

このような自閉症という重い障害を持った弟がいる家庭ですが、兄・姉・妹で母を助けがらばつていこうと思います。そして、それ以上に弟といつしよに沢山の喜びをつくつていきたいと思ひます。

